

農民ノ努力ハ籠紙ニ蓋シ難キモノデアル、渺茫タル泥土數十フ頓レバ
鉛ノ忍先ヲ折ル貝殻ノ續出、日光ニ當ツテ徐々ニ地底カラ上昇スル遺
分等ト戰フコト數年コノ間致々トシテウマザル勞働力ノ投下ト嚴寒ヲ
イトハズ間隙ヲ見テハ持コム肥土ト肥料、次カラ次ヘト損傷スル農具
ノ補償ト收穫ノアルマテノ生活維持費用ノ犠牲的支出等々ノ結果トシ
テ遂ニ數百年ノ後現在ノ美出ヲ作ルニ至ツタノデアル。

殊ニ特筆シナケレバナラナイノハ洪水ト海嘯ノタメ幾度カ多大ノ損
耗ヲ受ケ原野ヲ初メテ開墾スルノト等シイ努力ヲ擇グテ再ビ收穫ヲ得
ルニ至ツタモノデアル。

最近トシテハ明治元年大和川ノ遠里小野町堤防ガ決潰シ海水ハ新出
一面ヲ浸シ耕地面ハ約一尺以上ノ泥土ニ覆ハレテシマツタ、隣村濱口
町ノ墓地ノ如キハ全然泥土ノタメニ埋没シ最近土木事業ヲヤツタ處ガ
人骨墓石ガ出来テコヽガ墓地デアツタコトガ分ツタ、ソノ結果泥土
取除キ、高低ナラシメタメ莫大ノ努力ガ注ガレ數年間收入ノ道ハトザ

7

サル、状態ニオカレタ、コノ時ニモ地主ハ田地ノ改修ノタメ少シノ費
用モ支出セズ小作人人ノ負擔ニヨフテ變成シタ。

明治四年大暴風雨ニテ海端ガ變來シ一擧ニ堤防ヲ破壊シ海水ガ新出
ノ大半ヲ浸シタ、コノタメ土壤ハ鹽分ヲ含ミ數年間收入ガ激減シタ
大正二年九月ノ大暴風雨ニ當ツテ堤防警備ノタメ藤田勝次郎ノ如キ
ハ一身ヲ犠牲ニ供シ溺タコトナキアリ得タ事實アリ

昭和四年八月十五日コレマタ大暴風雨ノタメ波浪高ク防波堤ノ一部
ノ水門ハ危險ニ陥シ全小作人總動員ヲ徵齊之ヲ防備シ昭和五年七月三
十日之又數日前ヨリノ惡天候ノタメ協力防備シタガ耕作地一面ニ地上
約一尺乃至三尺ノ浸水アリ肥土水流レ溝ハ破壊サレ之ガ快復ノタメ莫
大ノ費用ト努力ヲ注ギ込ンダモノデアル

之等ハ非當時ニ於ケル小作人人努力ニアリガ平時ニ於テモ小作人ハ
心血ヲ注ギ資本ト努力ヲ注ギ込ンダモノデアル

本來コノ新出ハ泥濘ヲ埋立テ、田畠トシタノデアツテ日ノ經ルニ從